

GPT Image 2.0 vs Nano Banana 2

画像生成AIの戦略的使い分けと実務ワークフロー

「どちらか」ではなく、「どう使い分けるか」。プロフェッショナルのための二眼レフ・アプローチ。

Target Audience: マーケター、デザイナー、ディレクター、プロンプトエンジニア

Executive Summary: 結論から言うと、両者の役割は明確に異なる



「完成物・デザインの第一候補」

圧倒的な文字精度・構図・実写の自然さ

広告、資料、UI、インフォグラフィックなど、
「そのまま実務で使える素材」を生み出す即戦力。



「速度・量・一貫性の覇者」

大量生成・キャラクター維持・Googleエコシステム連携

複数参照画像を用いたキャラクターの連続展開や、
Google Photos連携による素早いアイデアの横展開に不可欠。

究極の解：両者をパイプラインとして組み合わせる「二段構え」が現代の最適解。

AIを「職人」として捉え直す



「緻密なアートディレクター」

#品質重視

#レイアウト完璧

#フォトリアル

指示されたテキスト（文字）や構図を正確に配置し、光と影を計算し尽くした「洗練された1枚」を納品する。



「俊敏なアニメーター/カメラマン」

#手数で勝負

#同一人物キープ

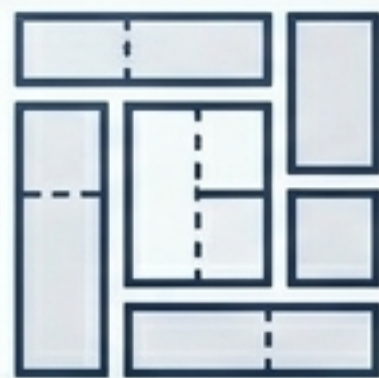
#コンテキスト理解

多少の野暮ったさはあるが、圧倒的なスピードでバリエーションを出し、同じモデル（顔）で別アングルのカットを大量に撮影する。

性能評価マトリクス：強みの分布

Evaluation Axis	GPT Image 2.0	Nano Banana 2
文字・タイポグラフィ	✓ 鮮明・強コントラスト	○ 高忠実度だがPro推奨
デザイン・誌面	✓ 広告・UI・洗練	△ やや野暮ったい
フォトリアル・質感	✓ 光・反射が自然	○ 見栄えは良いが実写感に劣る
人物・顔の同一性	△ 表情変化で別人化	✓ Nano Banana系が圧倒的優位
速度・大量生成	○ Medium/品質重視	✓ 高速ボリューム特化
長文プロンプト・空間	○ 過度なシャープ化懸念	✓ 空間構成に一貫性

GPT Image 2.0 の真髓 1： 商用レベルの 「即戦力デザイン」



- OpenAI公式の狙い: 信頼性の高い文字描画、構造化ビジュアル、広告生成、UIモック、科学/教育図解に最適化。
- 文字（タイポグラフィ）への強さ: 画像内の鮮明な文字、整ったレイアウト、強いコントラスト。

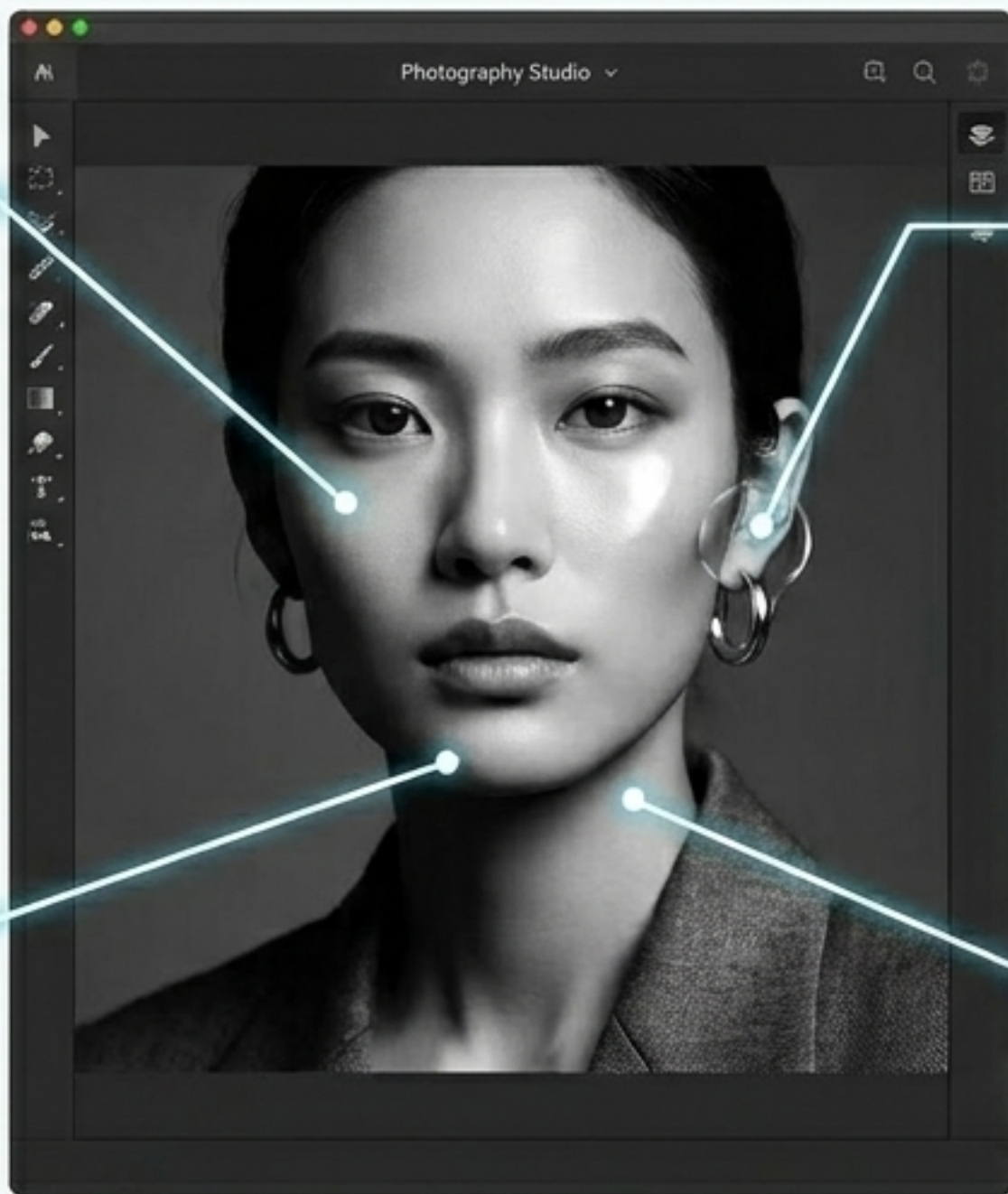


実務のコツ: 文字指定の際は必ず引用符 ("") を使用し、フォントスタイルや配置、余白も明確にプロンプトで指示する。

GPT Image 2.0 の真髓 2： 「フォトリアル編集」の極意



光 (Light):
光の振る舞いの
正確な計算



反射 (Reflection):
素材に応じた
的確な映り込み



影 (Shadow):
自然な落ち影
の生成



質感 (Texture):
肌やマテリアル
の高い実在感

TechRadar高評価:ポートレート
の背景変更、商品写真の実在感、
季節変更など実用的な編集において
圧倒的な優位性。

⚠ 注意点

注意点: 見栄えは良いが、ややス
タイライズ (整いすぎる) され、
実写の生々しさよりも『綺麗すぎ
る』印象に寄る場合がある。



プロの技: ブランドロゴや実商品の形
状を維持したい場合は「参照画像」を
使い、保存すべき要素を明示する。

Nano Banana 2 の真髓 1： 圧倒的な「速度と物量」



- Googleの設計思想：Gemini 3.1 Flash Image Preview（Gemini 3 Pro Imageの高效率版）として、速度と大量開発者利用に最適化。
- スケーラビリティ：1K, 2K, 4K生成に対応し、ラフ案の大量出しに最適。

「1つの完璧な正解」を待つのではなく、
「100のアイデア」から最良を選ぶためのエンジン。

Nano Banana 2 の真髓 2：「一貫性と空間構成」の維持



人物の同一性:

アスキーの検証結果より。複数参照画像（最大14枚）に対応し、顔の向きや表情が変わっても「本人らしさ」を強力に保持（特にPro版で顕著）。

Google連携:

Google Photos連携とPersonal Intelligenceにより、長いプロンプトなしで個人や家族の文脈を反映した画像を生成。

空間追従:

長く複雑なプロンプトに対しても一貫性を保ち、空間配置を正確に反映（Decrypt評価）。

プロジェクトの落とし穴：両モデルの「弱み」とボトルネック



GPT Image 2.0: 顔の平均化 (Facial Averaging)

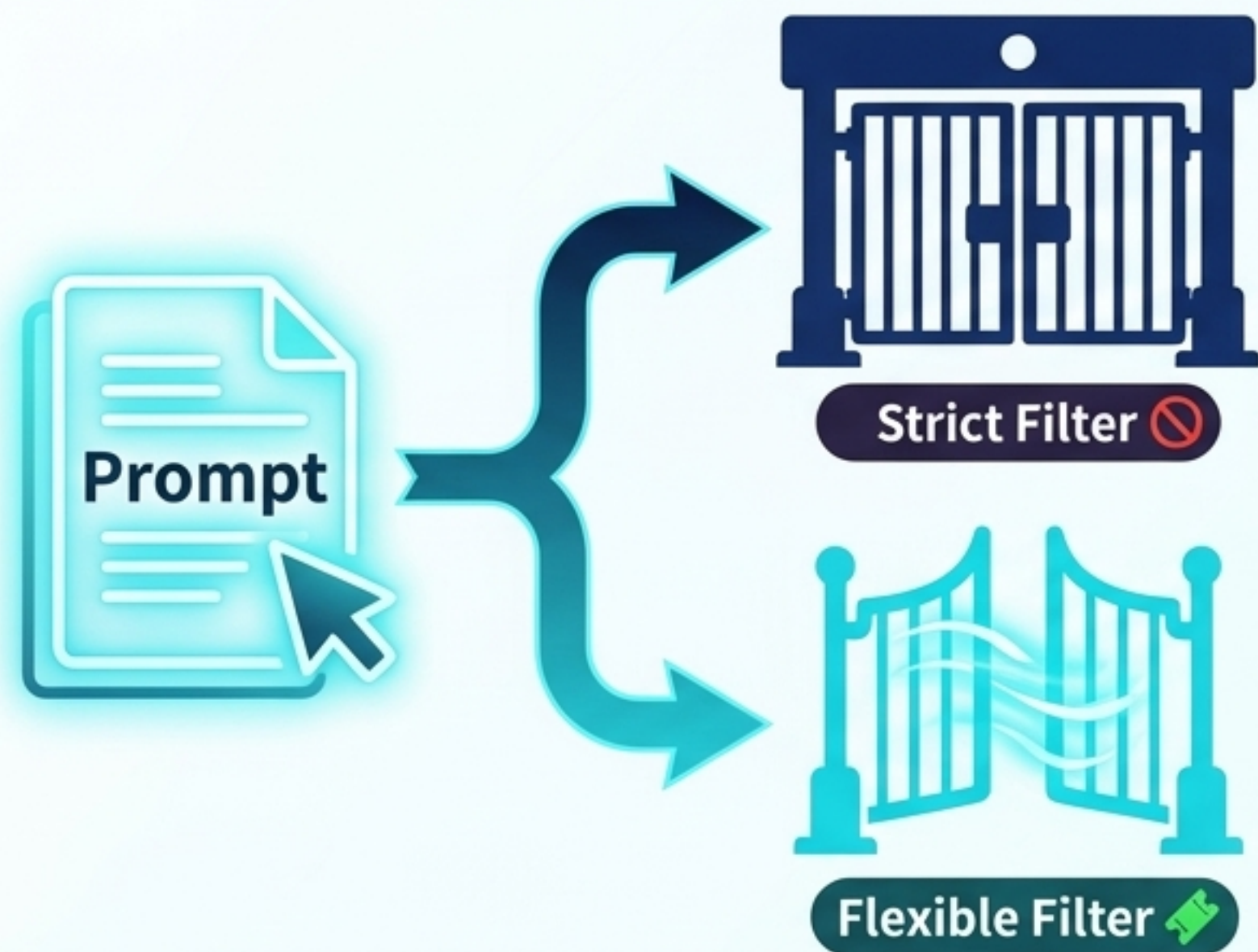
リファレンスを与えても、顔の向き・表情
変更で「平均的な美人顔」へ寄ってしまい
、同一人物の維持が困難。
(試行錯誤するほど別人化)



Nano Banana 2: デザインの野暮ったさ (Unrefined Design)

雑誌見開きなどのレイアウトや文字組みにお
いて、洗練された雰囲気にとまらず、デ
ザイン成果物としては一步劣る。光や質感も
GPTに比べ「本物らしさ」に欠ける場合がある。

コンプライアンスと表現制限：制作が止まる境界線



GPT Image 2.0 (厳格なフィルター)

性的意図がなくても、実写調の水着や未成年に見える人物で拒否（リジェクション）されやすい。学園設定の実写風キャラや水着広告では制作効率が大幅に下がるリスク。

Nano Banana 2 (柔軟なフィルター)

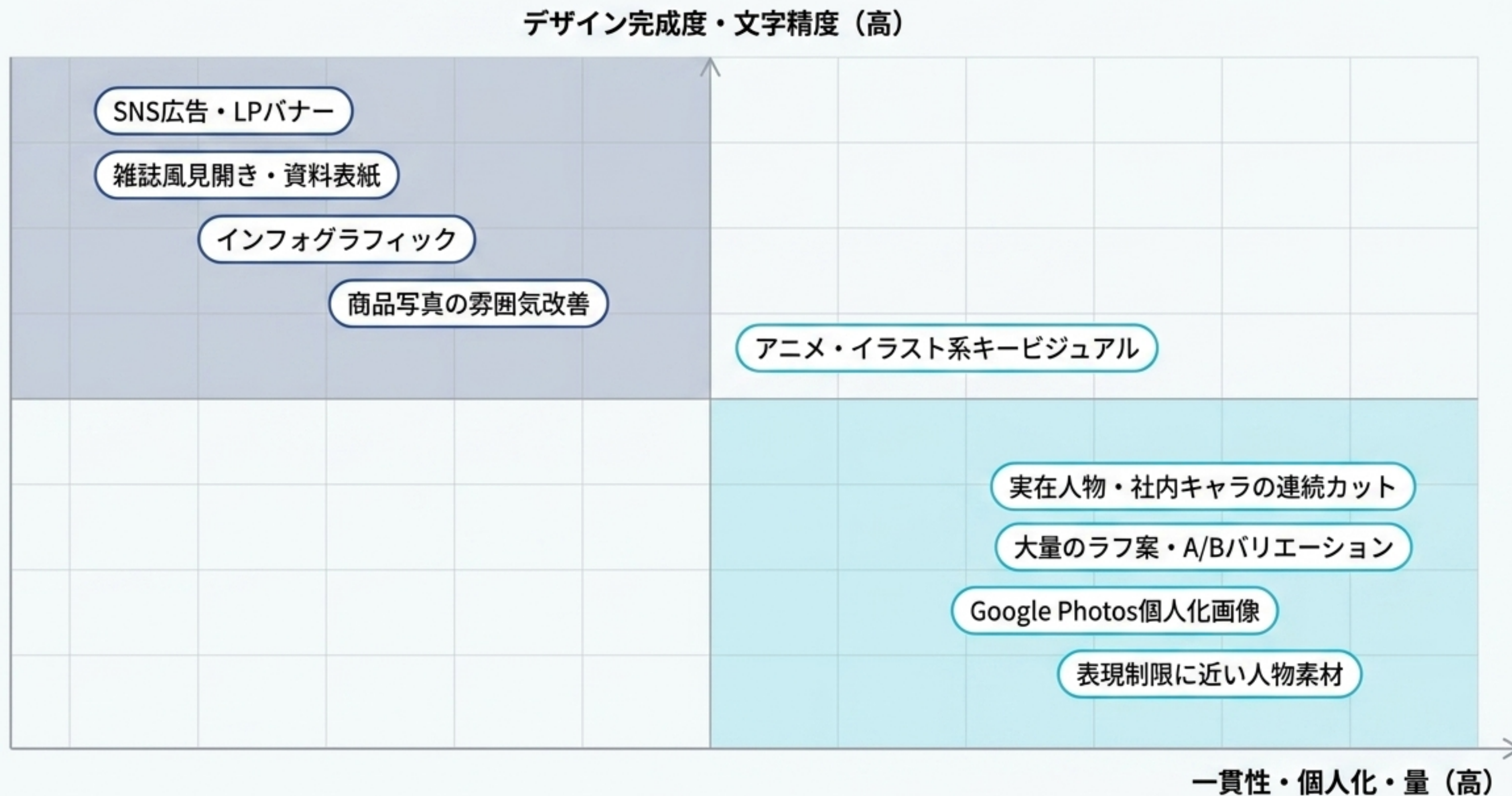
失敗はあるものの、GPTほど制限は厳しくなく、境界領域の表現で通過しやすい傾向がある。



Actionable Advice:

ポリシー境界に近いファッション・人物素材（グラビア風・ないもの含む）を扱う場合は、Nano Banana系を優先検討し、事前に失敗率をスケジュールに見込むこと。

ユースケース・マッピング：タスク別最適モデルの判断基準



用途別カタログ 1：広告・資料デザイン領域



SNS広告 / LPヒーローバナー

アプローチ: 文字、構図、広告らしい完成度の強みを活かす。



必須テクニック: 文字は引用符で指定し、フォント・余白も明示する。



雑誌風見開き / スライド画像

アプローチ: OpenAIガイドも推奨する主要用途。空間の洗練さを活かす。



安全策: 生成画像をベースにしつつ、細かい文字はDTPツール (Illustrator/Figma等) で差し替える。



インフォグラフィック / 文字多めの図解

アプローチ: 文字密度と情報量の処理に最適。




人間の介入: 最終用途が印刷・プレゼンの場合、人間による校正を必ず挟む。

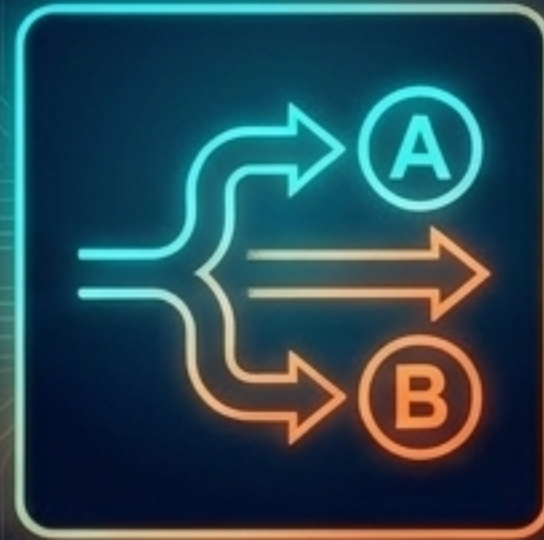
用途別カタログ 2：キャラクター・個人化領域



社内キャラ・実在人物の 連続カット

アプローチ: Nano Banana 2 (精度重視ならPro) 一択。

 **検証:** 同一人物案件では、同じ参照画像セットを使い、採用前に「表情差分」が崩れないか念入りに検証する。



大量ラフ案・ A/Bテスト

アプローチ: 速度を活かし、構図や配色のアイデアを限界まで広げる。



連携: ここで出た最終候補の構図だけを、GPT Image 2.0に渡して磨き上げる。



生活文脈・ 個人化画像

アプローチ: Google Photos連携を活用し、手動アップロードの手間を省く。



ルール: 個人情報・肖像を扱うための社内ルール(ガバナンス)を事前に設定する。

The Two-Stage Pipeline: 最強の併用ワークフロー

Phase 1: 拡散と検証

(Powered by Nano Banana 2)



Input:

アイデア、参照画像、長文プロンプト



Process:

高速・大量にバリエーションを生成。
人物や参照画像の一貫性が保たれているかをここで検証（テスト）。



Phase 2: 収束と研磨

(Powered by GPT Image 2.0)



Input:

Phase 1で絞り込んだベストな構図・設定

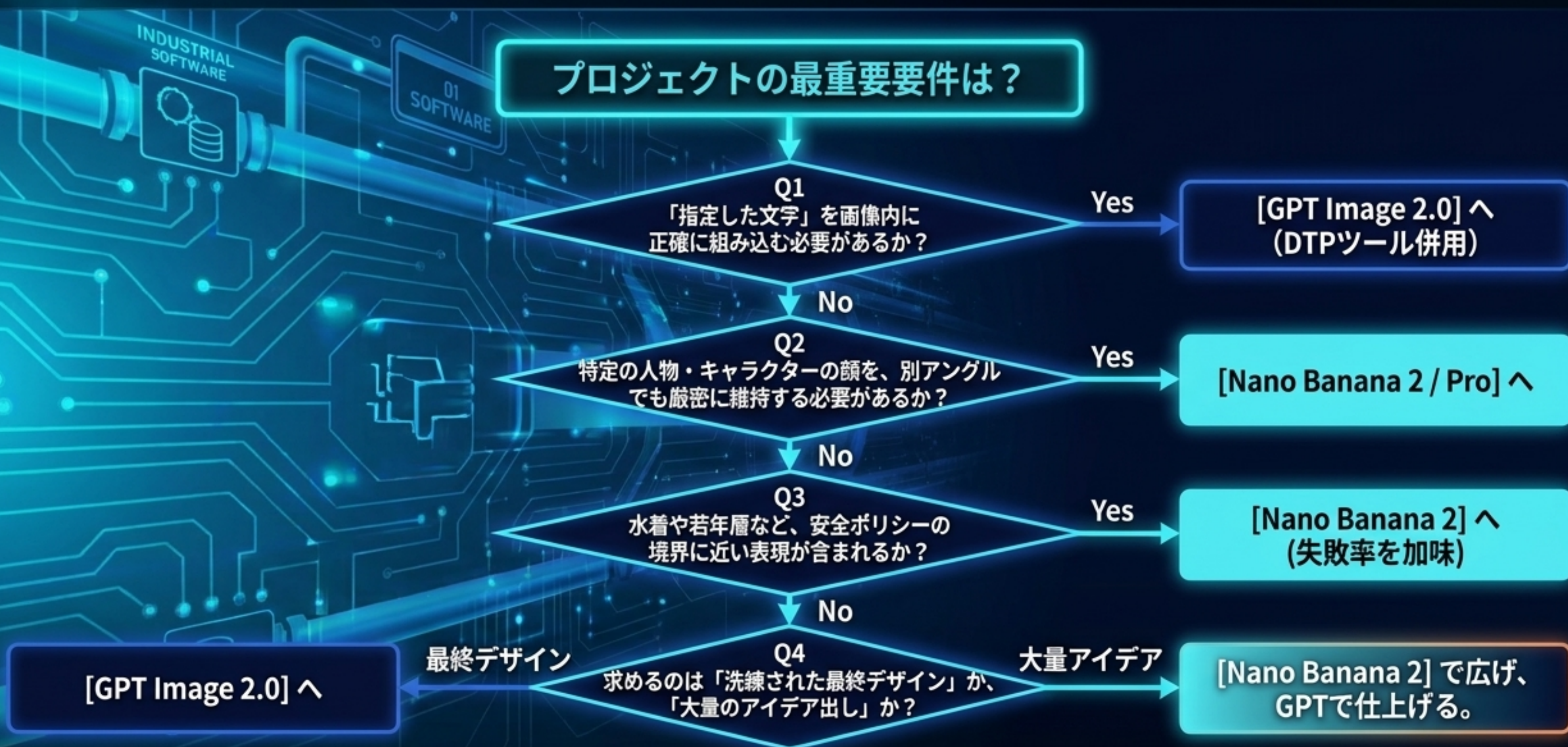


Process:

最終レンダリング。光と影、素材の質感、
正確な文字・タイポグラフィを追加して
「完成物」に仕上げる。

Key Insight: 片方を常に正解とするのではなく、工程ごとに役割を分けるのがプロの堅実な運用。

明日からのアクション：モデル選定フローチャート



完璧なAIは存在しない。ワークフローの最適化こそが最大の競争力となる。